

まなぶくんだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



和歌山の教育を担う中核教員の育成をめざした 「平成30年度学力向上コアティーチャー養成・活用事業」について

学力向上コアティーチャー養成・活用事業は、今年度で4回目の実施となり、市町村教育委員会から推薦いただいた15名の教員が、6月25日（月）から6月29日（金）の一週間、秋田県大仙市の大曲小学校と大曲中学校、大仙市教育委員会において実地研修を行いました。

実地研修では、秋田型とも言われる「探究型授業」の参観や授業実践、施策の周知や取組等の方法についての聞き取りを行いました。

本事業は、学力向上に成果を上げている県外の学校での研修を通じて、所属校で授業実践等を行うことにより、学力向上に向けた専門性とリーダー性を備えたコアティーチャーを養成すること、また、コアティーチャー自らが研修成果等を普及し、県全体の学力向上を推進することを目的として実施している事業であり、この4年間の受講者は91名に上ります。

受講者は、これまでの自身の実践と比較しながら、実地研修において新たに得た知見等を、各地方の報告会や研修講座等で報告したり、実地研修後に自身が取り組んだ授業実践について、授業研究会等で発表したりしています。

学 校 名	氏 名
和歌山市立大新小学校	西岡 江利子
和歌山市立芦原小学校	佐藤 康宏
和歌山市立西脇小学校	丸田 翔子
和歌山市立有功小学校	諏訪 正義
かつらぎ町立妙寺小学校	福本 啓
海南市立黒江小学校	阪井 亮介
有田川町立田殿小学校	生駒 真次
田辺市立田辺東部小学校	吉本 大一
すさみ町立周参見小学校	湯川 靖子
和歌山市立貴志中学校	杉山 知美
和歌山市立紀之川中学校	盈 久美
岩出市立岩出第二中学校	尾上 誉幸
印南町立清流中学校	杉谷 素子
田辺市立東陽中学校	古家 甲斐
古座川町立古座中学校	井上 孝弘

報告会や授業研究会等は、各地方で行われていますので、先生方もぜひご参加いただき、県外の学校の実践を具体的に知る機会としていただきたいと思います。また、教科研究のネットワークを築き、先生方が共に、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの研究推進に生かしていただきたいと思います。



受講者の皆さん



秋田県での授業実践の様子



教育広報テレビ番組「はばたく紀の国～教育は今～」について

和歌山県教育委員会では、教育のめざす方向性やその時々教育課題について、新しい取組や学校・地域の特長ある取組等を取り上げながら、テレビ番組を制作し、テレビ和歌山で放映しています。

11月4日の放映では、「和歌山の子供たちに確かな学力を！～自ら進んで学ぶ授業づくりを通して～」と題し、これからの時代をたくましく生き抜く基盤となる学力を向上させるため、子供たちが「勉強が好き」「授業がよくわかる」と感じる授業づくりに取り組む教員の様子について、3つの取組を紹介します。

1つめは、学力向上に成果を上げている県外の学校へ派遣された教員が、実地研修で学んだことや所属校での授業実践等を交流しあう「授業づくり研究会」の様子です。今回は、平成29年度に県教育委員会で作成した授業事例集【理科編】(DVD)の協力者でもある教員が理科の授業実践を行い、研究会に参加した教員が学力向上をめざした授業づくりについて協議する様子が放映されます。

2つめは、新任教員が模擬授業演習等に取り組む「初任者研修宿泊研修」の様子です。この研修では、学校での日々の教育実践を振り返りながら、授業や学級経営、生徒指導等についての実践的な指導力の向上をめざしています。今回は、同じ教職に就く初任者同士が勤務校種や担当教科の枠を越えて、協働しながら一つの授業をつくりあげる様子が放映されます。

3つめは、国語科の授業づくりに取り組む、新宮市立王子ヶ浜小学校でのEサポートの様子です。今回のサポートでは、第2学年「どうぶつ園のじゅうい」を取り上げ、全体研修と授業案検討を行いました。教材内容をしっかりと分析した上で、子供たちに付けるべき力を具体的にイメージし、第三次から第一次に向かって逆向きに単元構想をしていきました。学校全体で授業改善に取り組む様子が放映されます。

和歌山県の子供たちのために学び続ける先生の姿をぜひご覧ください。

はばたく紀の国～教育は今～

和歌山の子供たちに確かな学力を！
～自ら進んで学ぶ授業づくりを通して～

放送日：11月4日(日)
時間：10:30～10:50

「はばたく紀の国～教育は今～」は、来年2月まで、毎月第1・第3日曜日(1月は第3日曜日のみ)に放送しています。



学び続けるということ

Monthly 所長コラム 教育センター学びの丘 所長 鈴木 晴久

13 翻訳事情

「I love you」という言葉があります。今では誰でも知っている言葉で、わざわざ訳す必要もありません。

しかし、この言葉が入ってきた明治初期に、日本にはこれに当たる言葉がありませんでした。これをどう訳すか、当時の知識人たちはずいぶん苦勞したようです。夏目漱石の「月が綺麗ですね」(「月がとっても青いなあ」という説も

ある。)とか、二葉亭四迷の「死んでもいいわ」がよく例として出されます。「大切に思います」と訳されたという話もありますが、どこで使われたかは不明です。ちなみに、二葉亭四迷の「死んでもいいわ」は、ツルゲーネフの『初恋』の翻訳に出てきますが、『初恋』はロシア文学なので、「I love you」と英語で書かれているわけはありません。また、該当する部分がロシア語の「I love you」には当たらないという説もありま

す。

いずれにしても、近代以後、西欧文明を急速に受け入れるために、漢学を基盤にして作られた学問・思想の基本用語とは異なり、日常使う言葉がどのように訳され、普及していったかというのも大変興味深いことだと思いますが、その研究はあまり進んでいないようです。まだまだ、学ぶべきことはいくつもあります。

